

【2種類の肺炎球菌ワクチン【23価と13価】について改定】

シニア用の23価肺炎球菌ワクチン「坂東玉三郎ワクチン（ニューモバックス）」は、65歳になる年度〔4月1日～翌年3月31日〕に1回のみ定期接種となりました。平成30年までは5歳刻みで70、75、80、85、90、95と100歳も定期接種です。今年65歳の方は5年後の70歳には定期接種になりません。以前に接種している人も定期接種になりませんが、5-7年後に任意接種はできます。この5年間の経過措置は30年度〔31年3月31日まで〕で終了します。それ以降は65歳の1年間のみ定期接種となる予定です。

乳幼児用の13価肺炎球菌ワクチン「加山雄三ワクチン（プレブナー）」も65歳以上で接種できるようになりました。ある種のリンパ球に作用して長期の免疫持続が期待できます。2種類の肺炎球菌ワクチンの使い方、より有利な接種方法と順序と間隔について説明します。

- ◆ 23価を接種してあれば、1年以上開けて13価を接種する。2回目の23価を追加する時は、さらに1年以上あけて、且つ23価の1回目から5年以上開けて追加する。
多くの方は、23価を済ませていますから、今後はこのうち方で接種しましょう。
- ◆ 13価を接種して、6-12か月後に23価を接種する。それ以降の追加接種は不要です。
13価を先に接種すると免疫効果が高まり、その後の23価を追加した時により高い免疫が期待できます。23価を接種後、5-7年で2回目の23価を追加した時よりも高い免疫ができることが知られています。23価を追加接種する前に13価を接種するように計画しましょう。

《推奨される接種方法》

- 1) 4-9月に65歳になる人は、65歳になったらすぐに13価を接種して6か月以上開けて、3月末までに23価を定期接種する。
- 2) 10月以降で65歳になる人は、23価を定期接種して1年以降に13価を接種する。そして5年経ったら23価を任意追加する。
- 3) 今年度66-69歳の方は、今年に13価を接種しておいて70歳になる年度に23価を定期接種する。71-74歳（75歳）、76-79歳（80歳）、81-84歳（85歳）、86-89歳（90歳）、91-94歳（95歳）、96-99歳（100歳）も同様です。
- 4) すでに23価を接種している方で、5年経って23価を接種する時には、今回は13価を接種して、半年から1年後に23価を任意接種する。
- 5) 脾臓摘出後などの免疫低下時の肺炎球菌ワクチンは、以前から23価が保健適応されました。この時にも先に13価を接種後、8週間以上開けて23価を接種することが推奨されています。しかし13価は、2カ月から6歳未満と65歳以上にしか認可されていないので、重篤な副反応などの国の保証はありません。本人または保護者の同意書が必要です。

Ⓐ 13 価 … (6か月から1年後) 23 価 【更なる追加接種は不要と考えられています】

Ⓑ 23 価 … (1年以上開けて) 13 価 … (Ⓐ同様：1回目の23価から5年開けて) 23 価

Ⓒ 13 価 … (8週間あけて) 23 価 【脾臓摘出時や免疫低下などで感染リスクが高い時】